

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 小松市国際交流協会

1. 事業の趣旨・目的

日本語指導に関わる者が、共通認識を持ち、指導力・コーディネーター力を高め、従来のテキスト（みんなの日本語）を使用した積み上げ形式の指導法に加え、教育の認識が低い外国人や過酷な就労生活の中での学習者、またより専門的な指導（発音の修正、報告書の書き方、専門職のノウハウ）を希望する者に、より実践的で、ニーズにあったカリキュラムの制作、指導を行い、会話力がつくような会話重視の交流型教室を実施する。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成23年 6月18日	こまつまちづくり 交流センター	堀永乃・今井武・荒井美代子 犬塚則子・グラッシ徳子 北川雅恵・海野昂 ・綾 美寿恵・本田昌代	当協会の課題について	当協会の課題を明確にし、それぞれの立場から改善を図る仕組みを考えた。
平成23年 9月16日	こまつまちづくり 交流センター	堀永乃・今井武・荒井美代子 犬塚則子・グラッシ徳子 北川雅恵・谷路清美・海野昂 綾 美寿恵・本田昌代	・学習者アンケート報告 ・「生活のための日本語教室」について	アンケート結果より生活に密着した内容で学習者のコミュニケーション能力を上げる教室が必要になっており、文化庁の研修を踏まえ教室の内容、運営を検討した。
平成24年 1月13日	こまつまちづくり 交流センター	堀永乃・今井武・荒井美代子 犬塚則子・グラッシ徳子 北川雅恵・谷路清美・海野昂 綾 美寿恵・本田昌代	・研修終了報告 ・新たな教室報告 ・今後の日本語教室の体制について	研修、新たな教室報告と改善点についての話し合い。 次年度の新体制と新たな研修の必要性について検討した。



平成24年1月13日 第3回運営委員会

3. 講座の内容について

- (1) 講座名 「ニーズに合った日本語教室を目指して」
- (2) 開催場所
ア 講義 こまつまちづくり交流センター 実習 こまつまちづくり交流センター
- (3) 学習目標
養成された日本語指導ボランティアが中心となって、外国人のニーズに合ったカリキュラムを作成し新たな日本語教室に役立て、市民ボランティアを巻き込んでの交流型日本語教室をコーディネートし実施へと繋げる。
- (4) 使用した教材・リソース
各講師作成の資料を使用
- (5) 受講者の募集方法
北陸都市国際交流連絡会(北陸3県国際交流関係者の会)のネットワークを活用しチラシ配布
各講座チラシ参照
- (6) 受講者の総数 91人
(出身・国籍別内訳)
日本 82人・ブラジル 9人
- (7) 開催時間数(回数) 43時間 (全 12回)
講義 22.5時間 (12回)、実習 20.5時間 (12回)
- (8) 参加対象者の要件
日本語指導ボランティア、日本語市民サポーター(対話ボランティア)、在住外国人
- (9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名	講師
1	4月24日 14:00~17:00	3時間	45人	ちがいを食べて成長しよう 異文化コミュニケーション	大手前大学 教授 安藤 幸一
2	① 5月22日 10:00~12:00	2時間	33人	①やさしい日本語	①石川県国際交流協会 専任講師 今井 武 ②石川県国際交流協会 講師 星 亨
	② 13:00~15:00	2時間	15人	②優しい日本語	

3	6月4日 13:30~17:30	4時間	42人	日本の復興は多文化共生から “みんなの力で地域を再生しよう”	多文化共生センター大阪 代表理事 田村 太郎
4	6月5日 10:00~16:30	6時間	23人	リアルな日本語を教えるために！ ファシリテーターの力をつけよう！	浜松国際交流協会 主任 堀 永乃
5	6月18日 13:30~17:30	4時間	56人	教材の活用法を学ぶ	海外技術者研修協会日本語教育セ ンター長 春原 憲一郎
6	7月9日 13:30~17:30	4時間	23人	タスク先行型授業にチャレンジ！	イーストウエスト日本語学校 校長 嶋田 和子
7	7月30日 13:30~17:30	4時間	19人	生活のための漢字教育の必要性 と教材作成	大阪大学 特任助教 新庄 あいみ
8	8月27日 13:30~16:30	3時間	31人	サードカルチャーキッズ 多文化の間で生きる子どもたち	サードカルチャーキッズ翻訳者 日部 八重子
9	9月18日 10:00~15:00	4時間	18人	中間ふりかえりと教室の計画を立 てる	浜松国際交流協会 主任 堀 永乃
10	10月8日 10:00~16:00	5時間	17人	わかりやすい発音を身につける	名古屋大学 教授 鹿島 央
11	H24.1月13日 14:00~16:00	2時間	10人	最終ふりかえりとファシリテーショ ン能力を上げる	浜松国際交流協会 主任 堀 永乃

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケートより

- ・ 毎回素晴らしい講師陣で研修が楽しみだった。
- ・ 研修に関しては、長時間だが講義だけでなく、実習があり実践にすぐに役立ち大変良かったという意見を多くもらった。
- ・ 今までこのような研修を受ける機会がなかったので、スキルアップと共に今後の指導を大きく変えるものとなった。
- ・ タスク先行型授業の嶋田氏や堀氏の研修を増やして欲しい。導入のやり方がまだまだ難しく、文法積み上げ型からなかなか抜け出せない。

② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・ 計画当初7月には一般サポーターを入れての交流型教室を立ち上げる計画だったので、前半にかなりタイトなスケジュールで研修を行ったが、研修を行えば行うほど、ニーズに合った教室は今の講師ボランティアのスキルでは難しく、新たな「生活のための日本語教室」までかなりの時間を要した。浜松国際交流協会の堀氏においては、運営委員と研修講師を兼ねて頂き、ボランティアのスキルアップと共に運営、コーディネート の両方面からのサポートのお陰で、当協会の日本語教室は改善の方向へと大きく進んだ。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・ 次年度は、「ニーズにあった日本語教室」を再度検討し、本格的にグループレッスンがで

きるボランティアを育成しながら教室運営をする。

- ・主に在住外国人が在籍し活動する部会を設け、日本人ボランティアが行ってきた多文化共生を推進する活動を行う。次年度は在住外国人の立場からの推進事業を行う。
- ・またその活動において、不足するノウハウやスキルを上げるための研修の場を設け、日本人と共に、両輪で多文化共生を推進する。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- ・日本語教室の受講生の中からキーパーソンが生まれ、受講生自ら在住外国人に呼びかけ、日本語学習者を増やしたり、教室そのものを盛り上げるなどボランティアと一緒に教室を作り上げている。また地域で行われる既存のイベントや防災訓練などにも積極的に参加し日本人市民と外国人市民の顔の見える関係を構築した。

② 研修後の人材活用

- ・研修を終えたサポーターは、グループレッスン時学習者の横につき、ファシリテーターの指示の下、学習サポートにあたる。また、さらに日本語講師ボランティアを希望する者は、教師養成講座研修を受け、サブ講師として活動する。
- ・既に講師ボランティアとして活動している者は、さらにブラッシュアップを図り、メインの教師として教室運営に関わってもらおう。

(12) 今後の課題

- ・小松市在住の外国人数に対する当協会の新規日本語教室申込者は、年間50名と少なく、殆どがプライベート教室で学習を行っており、前年度からの継続者も10人と少ない。この数を5年後、300人に上げる努力が必要となる。
- ・今後の学習者数を増やすにはグループレッスンを主に行う必要がある、グループレッスンができる講師ボランティア育成が急務だと考えている。
- ・次年度より当協会の方針を掲げ、日本語コーディネーター、日本語部会長、事務局の役割を考え、分担し、運営に当たれるよう考えたい。